

平成31年4月16日

営農技術情報 水稻(その3)

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

乾田化をすすめるためにも、早めにほ場準備を始めましょう。また、施肥以降の作業は、移植日から計算し計画的に行いましょう。

1 畦畔の補修

- ・水田の漏水防止と、冷害危険期の水深の維持のため、畦高30cmを目標に畦畔を補修しておきましょう。

2 ケイ酸資材の散布

- ・水稻は、他の作物に比べ、ケイ酸吸収量が多い作物です。稲体の物理的強化や食味向上のためにも、土壌改良資材としてケイ酸資材を施用しましょう。

3 耕起

- ・ほ場表面の有機物の分解を促すためにも、ほ場が乾いたらなるべく早く、ケイ酸資材を散布し粗起こしを行いましょう。

注意！

過湿条件での耕起は、機械による踏圧や練り返し等により、かえって透排水性を悪化させるので注意しましょう。

4 施肥・混和

- ・施肥後、ロータリーでゆっくり混和し、碎土・均平をはかりましょう。

5 代かき

- ・入水は施肥・混和後速やかに行います。

注意！

施肥・混和から入水までは1週間以内に行いましょう。時間をおくと、土壌中でアンモニア態窒素が硝酸態窒素に分解され、入水の時に流亡してしまいます。

- ・混和作業を丁寧に行い、代かきは練りすぎないように行いましょう。

注意！

代かきを強く行いすぎると、透排水性の低下と土壌還元が進むことで、根の発育に悪影響を及ぼします。